

8.2 緑

8.2.1 東京2020大会の大会開催前及び開催後

(1) 調査事項

調査事項は、表 8.2-1 に示すとおりである。

表8.2-1 調査事項(東京2020大会の開催前及び開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 ・緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の緑化検討においては、千代田区及び東京都の関係機関と協議のうえ、適切に緑地を確保する計画としている。 ・既存樹木に配慮し、建物や園路の配置を工夫することで、ヒマラヤスギの大樹等を保存する計画とした。また、事業の実施に伴い、要注意外来生物であるトウネズミモチを含む高木のほか植栽樹木は伐採されるが、移植に適した中低木は公園内に移植する計画としている。 ・植栽樹種は、周辺の既存樹木を考慮してクスノキ等の日本在来の樹種を選定し、北の丸公園との景観の連続性を確保する計画としている。 ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。 ・ヒマラヤスギの大樹等の保存状況、公園内に移植する中低木の移植状況及び植栽状況について、フォローアップで確認する。

(2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

(3) 調査手法

調査手法は、表 8.2-2 に示すとおりである。

表8.2-2 調査手法(東京2020大会の開催前及び開催後)

調査事項		植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
調査時点		中道場棟工事の終了後とした。
調査期間	調査する事項	2021年の適宜とした。
	調査条件の状況	2021年の適宜とした。
	ミティゲーションの実施状況	2021年の適宜とした。
調査地点	調査する事項	計画地及びその周辺とした。
	調査条件の状況	計画地及びその周辺とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	調査する事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とした。
	調査条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

(4) 調査結果

1) 調査結果の内容

ア. 予測した事項及び予測条件の状況

(ア) 植栽内容(植栽基盤など)の変化の程度

計画地は皇居外苑北の丸地区(北の丸公園)内に位置し、計画地内の植生は日本武道館の周囲に常緑広葉樹(クスノキ、タブノキ)、混交林(ケヤキ、ソメイヨシノ)の植栽高木が分布している。

事業の実施に当たっては、既存樹木に配慮し、建物や園路の配置を工夫することで、ヒマラヤスギの大樹等を保存した。また、事業の実施に伴い、要注意外来生物であるトウネズミモチを含む高木のほか植栽樹木を伐採し、移植に適した中低木のキリシマツツジ、ツツジ等は公園内に移植した。また、植栽樹種は、周辺の既存樹木を考慮して、マルバアオダモ、コハウチワカエデ、イロハモミジ、ヤマボウシ、モッコク、マサキ、サカキ等の日本在来の樹種を選定し、北の丸公園との景観の連続性を確保している。これらの移植及び新植した植栽は良好に生育している。

したがって、事業の実施前と同様の植栽内容が維持されていると考える。

(イ) 緑の量(緑被率や緑化面積など)の変化の程度

計画地は皇居外苑北の丸地区(北の丸公園)内に位置し、計画地内の植生は日本武道館の周囲に常緑広葉樹(クスノキ、タブノキ)、混交林(ケヤキ、ソメイヨシノ)の植栽高木が分布し、事業実施前の緑の面積は約3,240m²であった。この緑は、中道場棟の建設に伴い、ほぼ改変されたが、計画地内の新規植栽で約150m²、計画地周辺の園路再整備により約130m²の緑地を新たに確保した。

事業の実施に当たっては、既存樹木に配慮し、建物や園路の配置を工夫することで、ヒマラヤスギの大樹等を保存した。また、事業の実施に伴い、要注意外来生物であるトウネズミモチを含む高木のほか植栽樹木を伐採し、キリシマツツジ、ツツジ等の移植に適した中低木は公園内に移植した。さらに、周辺の既存樹木を考慮して、マルバアオダモ、コハウチワカエデ、イロハモミジ、ヤマボウシ、モッコク、マサキ、サカキ等の日本在来の樹種を選定し、高木約40本、中木約200本、低木約2,000本を新植した。また、「4. 日本武道館の計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画 (7)緑化計画」(p.11 参照)に示したとおり、東京における自然の保護と回復に関する条例及び千代田区緑化推進要綱に基づく手続きを満たしている。緑化検討においては、千代田区及び東京都の関係機関と協議のうえ、適切に緑地を確保していることから、事業による影響は低減されると考える。

イ. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.2-3(1)及び(2)に示すとおりである。なお、緑に関する問合せはなかった。

表8.2-3(1) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催前及び開催後)

ミティゲーション	・今後の緑化検討においては、千代田区及び東京都の関係機関と協議のうえ、適切に緑地を確保する計画としている。
実施状況	緑化検討においては、千代田区及び東京都の関係機関と協議のうえ、事業実施後において約2,953m ² の緑地を確保した。
ミティゲーション	・既存樹木に配慮し、建物や園路の配置を工夫することで、ヒマラヤスギの大樹等を保存する計画とした。また、事業の実施に伴い、要注意外来生物であるトウネズミモチを含む高木のほか植栽樹木は伐採されるが、移植に適した中低木は公園内に移植する計画としている。
実施状況	<p>既存樹木に配慮し、建物や園路の配置を工夫することで、ヒマラヤスギの大樹等を保存したほか、ケヤキ、タブノキ、クスノキ、イチョウ、サクラ等の高木12本を含む樹木を保存した。また、事業の実施に伴い、要注意外来生物であるトウネズミモチを含む高木のほか植栽樹木を伐採し、キシマツツジ、ツツジ等の移植に適した中低木は公園内に移植した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>保存したヒマラヤスギ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>保存したイチョウ</p> </div> </div>
ミティゲーション	・植栽樹種は、周辺の既存樹木を考慮してクスノキ等の日本在来の樹種を選定し、北の丸公園との景観の連続性を確保する計画としている。
実施状況	<p>植栽樹種は、周辺の既存樹木を考慮して、マルバアオダモ、コハウチワカエデ、イロハモミジ、ヤマボウシ、モッコク、マサキ、サカキ等の日本在来の樹種を選定し、高木約40本、中木約200本、低木約2,000本新植し、北の丸公園との景観の連続性を確保した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>新植したイロハモミジ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>新植したヤマボウシ等</p> </div> </div>

表8.2-3(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催前及び開催後)

実施状況(つづき)		
		
	新植したイロハモミジ等	新植したサルスベリ等(落葉季)
ミティゲーション	・十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。	
実施状況		
	移植及び新植を行った樹種の生育に十分な植栽基盤(土壌)を整備した。	
		
	新植時に整備した植栽基盤	
ミティゲーション	・ヒマラヤスギの大樹等の保存状況、公園内に移植する中低木の移植状況及び植栽状況について、フォローアップで確認する。	
実施状況		
	保存したヒマラヤスギの大樹等の良好な生育、公園内に移植したツツジ等の中低木の良好な生育を確認した。	
		
	保存したヒマラヤスギ	移植したツツジ

2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

ア. 予測した事項

(ア) 植栽内容(植栽基盤など)の変化の程度

計画地は皇居外苑北の丸地区(北の丸公園)内に位置し、計画地内の植生は日本武道館の周囲に常緑広葉樹(クスノキ、タブノキ)、混交林(ケヤキ、ソメイヨシノ)の植栽高木が分布している。

事業の実施に当たっては、既存樹木に配慮し、建物や園路の配置を工夫することで、ヒマラヤスギの大樹等を保存した。また、事業の実施に伴い、要注意外来生物であるトウネズミモチを含む高木のほか植栽樹木を伐採し、移植に適した中低木のキリシマツツジ、ツツジ等は公園内に移植した。また、植栽樹種は、周辺の既存樹木を考慮して、マルバアオダモ、コハウチワカエデ、イロハモミジ、ヤマボウシ、モッコク、マサキ、サカキ等の日本在来の樹種を選定し、北の丸公園との景観の連続性を確保している。これらの移植及び新植した植栽は良好に生育している。

したがって、事業の実施前と同様の植栽内容が維持されていると考える。

以上のことから、予測結果と同様に、既存植生の植栽内容の変化は小さいと考える。

(イ) 緑の量(緑被率や緑化面積など)の変化の程度

計画地は皇居外苑北の丸地区(北の丸公園)内に位置し、計画地内の植生は日本武道館の周囲に常緑広葉樹(クスノキ、タブノキ)、混交林(ケヤキ、ソメイヨシノ)の植栽高木が分布し、事業実施前の緑の面積は約3,240m²であった。この緑は、中道場棟の建設に伴い、ほぼ改変されたが、計画地内の新規植栽で約150m²、計画地周辺の園路再整備により約130m²の緑地を新たに確保した。

事業の実施に当たっては、既存樹木に配慮し、建物や園路の配置を工夫することで、ヒマラヤスギの大樹等を保存した。また、事業の実施に伴い、要注意外来生物であるトウネズミモチを含む高木のほか植栽樹木を伐採し、キリシマツツジ、ツツジ等の移植に適した中低木は公園内に移植した。さらに、周辺の既存樹木を考慮して、マルバアオダモ、コハウチワカエデ、イロハモミジ、ヤマボウシ、モッコク、マサキ、サカキ等の日本在来の樹種を選定し、高木約40本、中木約200本、低木約2,000本を新植した。また、東京における自然の保護と回復に関する条例及び千代田区緑化推進要綱に基づく手続きを満たしており、適切に緑地を確保していることから、事業による影響は低減されると考える。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。